

■諸橋轍次 漢学者、中国哲学者。30年以上かけ、大空襲を乗り越え、中国の「康熙字典」をしのぐ「大漢和辞典」を完成。

もろはしてつじ

岩倉具視没・1883＝ 新潟県南蒲原郡の現在の下田村で、代々学問を営む家の次男として生まれ、

小学校校長で私塾を開いていた父と共に母まで村民から尊敬される環境で、

国民之友始・1887＝ 4歳：父から「三字経」の素読を学ぶ。

帝国憲法発布1889＝ 6歳：村立尋常小学校入学。

大本教・・・1892＝ 9歳：

郡司千島探検1893＝10歳：卒業して同校補習科入学。

日清戦争始・1894＝11歳：

日清戦争終・1895＝12歳：卒業。近在の奥畑米峰が開く「静修義塾」に入り、専ら漢学を修業するとともに大きな影響を受ける。

子規句歌革新1898＝15歳：退塾して尋常小学校の代用教員となる。

Bushidou・・・1899＝16歳：新潟県第一師範学校入学、校規を盾にとる舎監に反抗して謹慎処分となるも、姿勢や才能が目目される。

田中正造直訴1901＝18歳：

日露戦争始・1904＝21歳：首席で卒業し、東京高等師範学校(東京教育大)国語漢文科に入学、

日露戦争終・1905＝22歳：

嘉納治五郎校長から強い影響を受け、数学ができたため転科も考えるが、早く収入を得るため断念、

アヲキ創刊・1908＝25歳：母が死去。卒業し、群馬県師範学校教諭兼舎監となる。嘉納校長から附属中学校転任を要請され、

伊藤博文暗殺1909＝26歳：以後長く、附属中学校で教鞭を取る。東京高等師範学校漢文研究科に入学、

韓国併合・・・1910＝27歳：卒業論文「詩経研究」をまとめて卒業し、母校の助教諭となる一方、新潟県の女性と結婚、

明治天皇没・1912＝29歳：長男が誕生。「詩経研究」が処女出版されて注目される。

大正政変・・・1913＝30歳：教諭に昇格、

第一次大戦始1914＝31歳：次男誕生。

ロシア革命・1917＝34歳：長女誕生。

本格政党内閣1918＝35歳：父が死去。「三井家」からの助成を受けて文部省在外研究員として初めて念願の中国に出張し、

べ村仁条約・1919＝36歳：文部省より中国哲学及び中国文学研究のため中国留学を命ぜられ、「三菱」からの助成を受けて出発。

原敬首相暗殺1921＝38歳：帰国後、教授に昇格する一方、「三菱」の岩崎小弥太から「静嘉堂文庫」長を委嘱され、以後35年つとめる。

水平社結成・1922＝39歳：三男誕生。

治安維持法・1925＝42歳：三男誕生。大修館書店の創業者・鈴木一平から「大漢和辞典」編纂の依頼を受け、

円本時代始・1926＝43歳：漢文学科主任となるとともに、大東文化学院教授・駒沢大学講師を兼務。

金融恐慌・・・1927＝44歳：

共産党事件・1928＝45歳：次女誕生。\*編纂の約定が成立して、漢和辞典の編纂を開始。

世界恐慌・・・1929＝46歳：「儒学の目的と宋儒の活動」で文学博士。新設なった東京文科大学の助教授を兼務、

海軍軍縮条約1930＝47歳：教授に昇格した。

満州事変・・・1931＝48歳：

国際連盟脱退1933＝50歳：国学院大学教授も兼務。

帝人疑獄事件1934＝51歳：文部省から満洲国及び中華民国へ出張を命じられる。勲三等瑞宝章。

二二六事件・1936＝53歳：東京帝国大学文学部講師も兼務。

日中戦争始・1937＝54歳：「講書始の儀」進講の荣誉を得、

健保+総動員 1938＝55歳：再び、文部省より満洲国及び中華民国へ出張を命じられる。

大政翼賛会・1940＝57歳：教育功勞顯著により文部大臣から表彰される。

日米開戦・・・1941＝58歳：勲二等瑞宝章。

創価学会検挙1943＝60歳：国語審議会臨時委員。「大漢和辞典」第1巻刊行に漕ぎ付け、

年金+総武装 1944＝61歳：「大漢和辞典」の編纂で「朝日文化賞」を受賞したが、

敗戦・・・1945＝62歳：東京文科大学・東京高等師範を辞任。宮内省御用掛となり、学習院講師嘱託となる。大空襲で「大漢和辞典」全巻の組版及び資料を焼失。

新憲法公布・1946＝63歳：この年から、皇太子への漢学を進講を6年間務める。\*手術した右眼が全く失明するなど厳しい状況となったが、大修館書店の熱意もあって、残っていた校正刷をもとに、「大漢和辞典」の編纂を再開した。

新憲法施行・1947＝64歳：国学院大学教授に就任。

極東裁判決・1948＝65歳：青山学院教授を兼任。国立国会図書館建設に伴い、その支部となった「静嘉堂文庫」の長となる。

朝鮮戦争始・1950＝67歳：

独立回復・・・1951＝68歳：妻が死去。

メデー事件・1952＝69歳：活字職人が見当たらなくなったが、写真植字発明者・石井茂吉の協力を得ることで解決。

55年体制始・1955＝72歳：\*35年間務めた「静嘉堂文庫」長を辞任。遂に再企の「大漢和辞典」の刊行を開始。紫綬褒章を授けられ、「漢字界の懐古」を出版、さらに順天堂病院にて開眼手術を受けて左眼が開眼し、

国連加盟・・・1956＝73歳：再婚。

なべ底不況・1957＝74歳：懇請されて都留短期大学学長に就任し、大学昇格へ尽力、

安保闘争・・・1960＝77歳：\*全13巻(1万4873頁、親字4万9964)を完成。中華民国政府から学術奨章を受ける。昇格なった都留文科大学の初代学長。この年誕生した皇孫の御名号・御称号を勘申した。

全国総合計画1962＝79歳：郷里下田村の名誉村民に推され、

東京リビック 1964＝81歳：都留文科大学学長を辞任、

大学紛争始・1965＝82歳：\*文化勲章を受章するとともに、文化功勞者に推された。第二皇孫誕生に際し、御名号・御称号を勘申。

美濃部都知事1967＝84歳：\*青山学院を退職して、一切の公職より退く。

全共闘ビーク 1969＝86歳：皇孫誕生に際し、御名号・御称号を勘申。

大阪万博・・・1970＝87歳：大修館書店の創業者・鈴木一平が、護国寺に「大漢和辞典」出版記念碑を建立した直後に死去。

石油ショック 1973＝90歳：新潟総合テレビより、県出身の文化功勞者として表彰される。

田中角栄逮捕1976＝93歳：勲一等瑞宝章を授けられる。

JALハイジャック 1977＝94歳：「諸橋轍次著作集」全10巻刊行完結。

中曽根内閣・1982＝99歳：白寿記念出版として前年より刊行開始の「広漢和辞典」全4巻刊行完結後、老衰のため没した。

新潟県下田村「諸橋轍次博士の生涯」、「没年日本史人物事典」、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、